

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
芸術	音楽 I	2		6	12	8

◇科目の目標

音楽の諸活動を通し「芸術音楽」への理解を深め、基礎的な表現力・鑑賞力を養う。

◇科目の概要

音楽に必要な知識の確認、音楽鑑賞および、表現活動（実技）。

◇学習の進め方

教科書・学習書・音楽通論（副教材）によりレポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

通年科目です。レポート合格締切日までに課題が完了できなかった場合には単位を認定できません。

◇使用教科書 教育出版 音楽 I 改訂版 Tutti 307

◇副教材 音楽通論

◇スクーリング計画

回数	開講月日	授業内容	教科書 ページ
1	4月24日 25日	・楽譜の仕組み…音の高さ① 校歌 ・鑑賞：ヴィヴァルディ《四季》	教科書 音楽通論第2章
2	5月15日 16日	・楽譜の仕組み…音の高さ② ・ギターに触れてみよう	教科書 音楽通論第2章
3	7月24日 25日	・楽譜の仕組み…音の長さ① ・ウクレレで弾き語りに挑戦	教科書 音楽通論第1章
4	10月9日 10日	・楽譜の仕組み…音の長さ② ・ギター弾き語りに挑戦①	教科書 音楽通論第1章
5	11月6日 7日	・楽譜の仕組み…記号① さまざまな楽器① ・ギター弾き語りに挑戦②	教科書 音楽通論第3章
6	12月11日 12日	・楽譜の仕組み…記号② さまざまな楽器② ・ハンドベルを演奏しよう	教科書 音楽通論第3章

◇テスト範囲 なし

前期	レポート	後期	レポート
----	------	----	------

◇成績評価の方法

成績は面接の出席状況・取り組みの姿勢・レポートの完成度等から、総合的に評価する。

十分満足できる状況を「A」、おおむね満足できる状況を「B」、努力を要する状況を「C」とし、観点別評価の「知識・技能」は、「器楽演奏や面接の取組み状況、音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり、美しさを味わって鑑賞できているか」等により評価。「思考・判断・表現」は、「器楽演奏の様子、面接時の表現活動や取組み状況、音楽を感じ取り、思いや意図をもって表現活動ができているか」等により評価。「主体的に学習に取り組む態度」は、「出席状況、面接での説明を聞く態度、学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか、器楽演奏の完成度」等により評価する。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
芸術	音楽Ⅱ	2		6	12	8

◇科目の目標

音楽の諸活動を通し「芸術音楽」への理解を更に深め、個性豊かな表現力・鑑賞力を伸長する。

◇科目の概要

音楽に必要な理論の確認、音楽鑑賞および、表現活動（実技）

◇学習の進め方

教科書・音楽通論（副教材）によりレポートを作成する。

◇履修にあたっての留意点

通年科目です。合格締切日までに課題が完了できなかった場合には単位を認定できません。

◇使用教科書 教育出版 高校音楽Ⅱ 改訂版 Music View 308

◇副教材 音楽通論

◇スクーリング計画

回数	開講月日	授業内容	教科書 ページ
1	5月 1日 2日	・音楽の仕組み…音程① ・ギターでメロディを弾いてみよう	教科書 音楽通論第4章
2	6月26日 27日	・音楽の仕組み…音程② 舞台芸術 楽器の分類 ・ウクレレで弾き語りに挑戦	教科書 音楽通論第4章
3	7月10日 11日	・音楽の仕組み…音階① ギター 三味線 ・三線を弾いてみよう	教科書 音楽通論第5章
4	10月23日 24日	・音楽の仕組み…音階② 作曲家と作品 ・ギター弾き語りに挑戦①	教科書 音楽通論第5章
5	10月30日 31日	・音楽の仕組み…和音① 楽曲に用いられる音階 ・ギター弾き語りに挑戦②	教科書 音楽通論第6章
6	12月 5日 6日	・音楽の仕組み…和音② 世界の音楽 ・ハンドベルを演奏しよう	教科書 音楽通論第6章

◇テスト範囲 なし

前期	レポート	後期	レポート
----	------	----	------

◇成績評価の方法

成績は面接の出席状況・取り組みの姿勢・レポートの完成度等から、総合的に評価する。十分満足できる状況を「A」、おおむね満足できる状況を「B」、努力を要する状況を「C」とし、観点別評価の「知識・技能」は、「器楽演奏や面接の取組み状況、音楽の特徴や演奏の良さを解釈したり、美しさを味わって鑑賞できているか」等により評価。「思考・判断・表現」は、「器楽演奏の様子、面接時の表現活動や取組み状況、音楽を感じ取り、思いや意図をもって表現活動ができていないか」等により評価。「主体的に学習に取り組む態度」は、「出席状況、面接での説明を聞く態度、学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか、器楽演奏の完成度」等により評価する。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
芸術	書道 I	2		6	12	8

◇科目の目標

書道の諸活動を通し、書への理解を深め、基礎的な表現活動を養う。

◇科目の概要

漢字の書（楷書・行書・隸書）、仮名の書、漢字仮名交じりの書の学習。

◇学習の進め方

教科書・学習書を中心にレポートを作成する。実技作品の練習と清書の完成。

◇履修にあたっての留意点

通年科目です。各レポート合格締切日を厳守。

◇使用教科書 東京書籍 書 I 305

◇スクーリング計画

回数	開講月日	番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	4 / 24・25	1	書道入門（書写から書道へ） ・用具の基本、用筆法の基本を学ぶ ・私の一年間の目標を半紙に表現した作品制作	p 2～9 p 86、87
2	5 / 15・16	2	書体の変遷 ・五つの書体の変化と特長、臨書について学ぶ ・二つの楷書の古典を比較し、臨書をする	p 12～15 p 18、19
3	7 / 24・25	3	行書の基本を学ぶ ・行書の点画と形について特徴をとらえる ・「蘭亭序」と「風信帖」の書法を学び、臨書をする	p 32～45
4	10 / 9・10	4	隸書の基本を学ぶ ・隸書の基本線・形・筆法を学ぶ ・「曹全碑」の書法を学び、臨書をする	p 50、51
5	11 / 6・7	5	仮名の基本を学ぶ ・仮名の成り立ち、用具・用材を学ぶ ・いろは歌で基本用筆を学ぶ	p 62～79
6	12 / 11・12	6	漢字仮名交じりの書（創作） ・漢字仮名交じりの書の表現方法を学ぶ ・創作作品制作をする	p 85～101

◇テスト範囲 なし

前期	レポート	後期	レポート
----	------	----	------

◇成績評価の方法

成績は面接の出席状況・取り組みの姿勢・レポート、作品の完成度等から、総合的に評価する。

十分満足できる状況を「A」、おおむね満足できる状況を「B」、努力を要する状況を「C」とし、観点別評価の「知識・技能」は、「作品制作や面接の取組み状況、書の基本的な用筆・運筆を理解し、書の伝統と文化を味わって鑑賞できているか」等により評価。「思考・判断・表現」は、「作品制作の過程、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫しているか」等により評価。「主体的に学習に取り組む態度」は、「出席状況、面接での説明を聞く態度、用具等の持参状況、学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか」等により評価する。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
芸術	書道Ⅱ	2		6	12	8

◇科目の目標

書道の諸活動を通し、書への理解をさらに深め、個性豊かな表現活動を育てのばす。

◇科目の概要

漢字の書（楷書・行書・篆書・隸書・草書）、漢字仮名交じりの書の学習。

◇学習の進め方

教科書・学習書を中心にレポートを作成する。実技作品の練習と清書の完成。

◇履修にあたっての留意点

通年科目です。各レポート合格締切日を厳守。

◇使用教科書 教育出版 新編書Ⅱ 307

◇スクーリング計画

回数	開講月日	番号	授 業 内 容	教科書ページ
1	5 / 1・2	1	篆書の学習 篆書の概略と、基本的な書き方を学ぶ 金文・石鼓文の臨書をする	p 6～13
2	6 / 26・27	2	隸書の学習 隸書の発展的な表現と書き方を学ぶ 乙瑛碑と曹全碑を比較し、乙瑛碑を臨書する	p 24～29
3	7 / 10・11	3	草書の学習 草書の概略と、基本的な書き方を学ぶ 書譜の臨書をする	p 35～37
4	10 / 23・24	4	行書の学習 王羲之と顔真卿の行書を比較し書法を学ぶ 集王聖教序と祭姪稿の臨書をする	p 42～49
5	10 / 30・31	5	漢字の書(創作) 古典臨書や鑑賞の学習を活かして漢字の書を創作する	p 56～59
6	12 / 4・5	6	漢字仮名交じりの書(創作) 校歌の中の好きなフレーズを書で表現する	全般

◇テスト範囲 なし

前期	レポート	後期	レポート
----	------	----	------

◇成績評価の方法

成績は面接の出席状況・取り組みの姿勢・レポート、作品の完成度等から、総合的に評価する。

十分満足できる状況を「A」、おおむね満足できる状況を「B」、努力を要する状況を「C」とし、観点別評価の「知識・技能」は、「作品制作や面接の取組み状況、書の幅広い用筆・運筆を理解し、書の伝統と文化を味わって鑑賞できているか」等により評価。「思考・判断・表現」は、「作品制作の過程、書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫しているか」等により評価。「主体的に学習に取り組む態度」は、「出席状況、面接での説明を聞く態度、用具等の持参状況、学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか」等により評価する。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
芸術	美術 I	2		6	12	8

◇科目の目標

美術の諸活動を通し美術への理解をさらに深め、基礎的な表現力や見方を養う。

◇科目の概要

鉛筆・着彩デッサン、レタリング等基礎的な技術の習得を目標に学習する。

◇学習の進め方

教科書・学習書を中心にレポートを作成する。(作品の完成)

◇履修にあたっての留意点

通年科目ですが、レポート合格締切日までに課題が完了できなかった場合には単位を認定できません。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4/24, 25	1	鉛筆デッサン 「自画像を描く」	p 22, 23
2	5/15, 16	2	水彩画 「桜の葉を描く」	p 16, 17, 18, 19
3	7/24, 25	3	平面構成 「色の基礎学習」	p 44, 45, 46, 47, 48, 49
4	10/ 9, 10	4	水彩画 「りんごとコップの着彩デッサン」	P16, 17
5	11/6, 7	5	レタリング 「漢字のデザイン」	P50, 51, 54, 55
6	12/11, 12	6	ルネサンス鑑賞 「アルノルフィーニ夫妻の肖像と ミケランジェロのダヴィデ像」	P10, 36, 37, 72, 75, 76

◇テスト範囲 なし

前期	レポート	後期	レポート
----	------	----	------

◇成績評価の方法

成績は面接の出席状況・取り組みの姿勢・レポート、作品の完成度等から、総合的に評価する。十分満足できる状況を「A」、おおむね満足できる状況を「B」、努力を要する状況を「C」とし、観点別評価の「知識・技能」は、「作品制作や面接の取り組み状況、美術の基本的な技術を理解し、美術の美しさを味わって鑑賞できているか」等により評価。「思考・判断・表現」は、「作品制作の過程、美術の良さや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し表現を工夫しているか」等により評価。「主体的に学習に取り組む態度」は、「出席状況、面接での説明を聞く態度、用具等の持参状況、学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか」等により評価する。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
芸術	美術Ⅱ	2		6	12	8

◇科目の目標

美術の諸活動を通し、美術への理解をさらに深め、自己の表現活動を高める。優れた作品に接する。

◇科目の概要

デッサン力と構成力を高める。作品のねらいを明確にする。

◇学習の進め方

教科書・面接を中心にレポートを作成する。(作品の完成)

◇履修にあたっての留意点

通年科目ですが、レポート合格締切日までに課題が完了できなかった場合には単位を認定できません。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5/1, 2	1	鉛筆デッサン 「手を描く」	P10, 58, 59
2	6/26, 27	2	木炭画 「コップを描く」	教科書全般
3	7/10, 11	3	イラストレーション 「ひまわりと夏」	P26, 27, 30, 31
4	10/23, 24	4	写真 「動物シルエット」	教科書全般
5	10/30, 31	5	デザイン 「万華鏡模様」	教科書全般
6	12/4, 5	6	イラストレーション 「【学習のしおり】の表紙絵制作」	P42, 43, 44, 45

◇テスト範囲 なし

前期	レポート	後期	レポート
----	------	----	------

◇成績評価の方法

成績は面接の出席状況・取り組みの姿勢・レポート、作品の完成度等から、総合的に評価する。十分満足できる状況を「A」、おおむね満足できる状況を「B」、努力を要する状況を「C」とし、観点別評価の「知識・技能」は、「作品制作や面接の取組み状況、美術の基本的な技術を理解し、美術の美しさを味わって鑑賞できているか」等により評価。「思考・判断・表現」は、「作品制作の過程、美術の良さや美しさを感じ取り、意図に基づいて構想し表現を工夫しているか」等により評価。「主体的に学習に取り組む態度」は、「出席状況、面接での説明を聞く態度、用具等の持参状況、学習内容や活動に関心を持ち主体的に取り組んでいるか」等により評価する。